

基準4 教育課程・学習成果

関連委員会	副学長、学部長、学科長、教務部、教務委員会
関連部署 (事務部門)	修学支援室、IR・広報室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則

令和4年度 【次年度に向けた課題】

- (1) アセスメントテストの受験率向上とアセスメントテストの見直し
- (2) 評価基準(授業間の評価格差)の再検討
- (3) 「敬愛プログラム」(SDGsに関連する取組み)の活性化
- (4) オンデマンド型授業の効果について検証(教育検証会議より)
- (5) AI・データサイエンス教育の充実
- ① 実践型AI・データサイエンス教育の充実(実データや実課題、企業との連携、インターンシップ)
- ② 高大連携の強化(敬愛学園高校、県内の公立高校)
- ③ 学修支援、就職支援などの各種サポートの強化

1 令和5年度 活動方針・目標(ACTION PLAN)

- (1) アセスメントテストの受験率向上とアセスメントテストの見直し
- (2) 評価基準(授業間の評価格差)の再検討
- (3) 「敬愛プログラム」(SDGsに関連する取組み)の活性化
- (4) オンデマンド型授業の効果について検証(教育検証会議より)
- (5) AI・データサイエンス教育の充実
- ① 実践型AI・データサイエンス教育の充実(a.実データや実課題、b.企業との連携、c.インターンシップ)
- ② 高大連携の強化(a.敬愛学園高校、b.県内の公立高校)
- ③ 学修支援、就職支援などの各種サポートの強化

2 具体的計画(PLAN)

- (1) アセスメントテストの受験率を上げるために、実施時期と期間に気を配る。また、期間中に未受験者に対してリマインドを行い受験を促す。今年度から教育学部がアセスメントテストではなく履修カルテでアセスメントを測ることになった。状況を確認しながら経済学部、国際学部の見直しを検討する。
- (2) 評価基準(授業間の評価格差)について継続して検討していく。
- (3) 「敬愛プログラム」の活性化に向けて検討していく。
- (4) オンデマンド型授業の効果について、これまでのオンデマンド授業のデータを用いて検証する。
- (5) AI・データサイエンス教育の充実
- ① a.「AI・データサイエンス実践」の外部講師招聘(2024年度開講)、b.ちばぎん総研の特別講義開講、c.インターンシップ先の開拓
- ② a.敬愛学園高校1年生対象の出前授業開講と2年生理系クラス対象の出前授業開講、b.県内の公立高校への出前授業開講
- ③ 学修相談会の開催、学修の振り返り(就職相談)の個別学生への対応

3 取組状況(DO)

- (1) アセスメントテストの、実施時期を1年生は4月、3年生は7月を中心に実施したが受験率は例年通りとなり次年度以降の課題となる。教育学部も急遽、他学部と同様にアセスメントテストを実施することとなった。また、1年生は7月、3年生は9月ガイダンス時にテスト結果を用いてのGPS-Academic振り返りガイダンスを実施した。
- (2) 評価基準(授業間の評価格差)について検討し昨年通りとすることとなった。併せて、授業評価アンケートと授業評価アンケートを受けての報告書について内容を検討し、報告書について一部追加した。
- (3) 「敬愛プログラム」の活性化のため、学生、ゼミ担当教員への周知を徹底して行い、募集した結果3件の応募があり2件の採択となった(1件は辞退)。
- (4) オンデマンド型授業の効果の検証はこれから実施する。
- (5) AI・データサイエンス教育の充実
- ① a.「AI・データサイエンス実践」の外部講師招聘(2024年度開講)は3回実施予定、b.ちばぎん総研の特別講義開講は2024年1月25日5限「観光マーケティング調査」にて特別講義実施予定、c.インターンシップ先の開拓はまだできていない。
- ② a.敬愛学園高校1年生対象の出前授業開講と2年生理系クラス対象の出前授業開講を1年生7月13日11:20～12:30大塚先生により実施(高校体育館)。2年生には6月29日11:45～12:35田中先生により実施(大学から高校4教室をつなぎzoom)。b.県内の公立高校への出前授業開講はまだできていない。
- ③ 学習相談会は6月11日昼休みに実施、学修の振り返り(就職相談)の個別学生への対応は実施できていない。

4 点検・評価(CHECK)

(1) アセスメントテスト受験率は例年とほぼ変わらず76%であった。今年度は、GPS-Academic振り返りガイダンスを実施して、テストの意味、内容を学生へ周知することができた。

(2) 評価基準(授業間の評価格差)について検討し昨年通り実施した。授業評価アンケートは、前期70%、後期54%と回答率が低かった。

(3) 「敬愛プログラム」採択された2件について、中間報告、最終報告を実施して単位認定となった。

(4) オンデマンド型授業の効果の検証については未実施となってしまった。

(5) AI・データサイエンス教育の充実

①a.業務提携完了 b.実施。受講生へのアンケート結果はすべて「期待通り」と「期待以上」と高評価。 c.未達成。

②a.計画通り、1年生全員を対象とする「データサイエンスへのいざない」と2年生理系4クラス対象のデータ分析実習を実施 b.未達成。

③相談会を前期・後期1回ずつ開催。ITパスポート講座開講。学修の振り返り(就職相談)の個別学生への対応は実施できなかった

5 次年度に向けた課題(ACTION)

(1) アセスメントテストの課題は受験率の低さであるため、受験方法の工夫が必要である。また、教育学部は次年度からPROGを利用するため内容、状況を把握する。

(2) 評価基準(授業間の評価格差)のさらなる検討と、授業評価アンケートの回答率上昇(特に後期)の策を検討する。

(3) 「敬愛プログラム」の活性化を目指す。

(4) オンデマンド型授業の効果について検証をする。

(5) AI・データサイエンス教育の充実

①実践型AI・データサイエンス教育(a.「AI・データサイエンス実践」外部講師による実データを用いた実習 b.「観光マーケティング調査」外部講師による千葉県の実データを用いた分析紹介)

②高大連携の強化(a.敬愛学園高校 b.県内の公立高校)

③学修支援(a.説明会・相談会の開催 b.ITパスポート対策講座開講)

④「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」再認定に向けた準備

以上